

青春ing



賞状とトロフィーを手に喜びの西さん

県高校英語弁論大会が10月6日に県内から16校38人が出場して行われ、勝山高등학교2年生の西 佑美子さんが日韓の友好について弁論し、見事普通科系の部門で優勝に輝きました。指導にあたった水木 毅先生は、「原稿がすばらしい。発音やイントネーションが正確です。自分の言葉で伝え、聞く者に感銘を与えました。」と評価。

西さんは韓国ブームに乗り、韓国の文化や歴史に興味を持ち勉強していく内に、日本と韓国との歴史認識のずれを痛感。そして、金大中氏（韓国前大統領）が訪日の際に語った「わずか50年にも満たない不幸な歴史のために、1500年にわたる交流

県高校英語弁論大会優勝に輝く

西 佑美子さん（17） 旭町2

多き高校生です。



子どもたちがハロウィンを体験

10月21日、教育会館でハロウィンパーティーが開催され、70人の市内小中学生がアメリカの伝統行事を楽しみました。

魔女や海賊などに仮装した子どもたちは、ハロウィンの象徴とも言えるカボチャのちょうちん（ジャック・オ・ランタン）づくりやお化け屋敷を体験し、お菓子を持って現れたALT（外国人指導助手）に「トリックオアトリート（お菓子をくれないといたずらするぞ）」と言い寄って、たくさんのお菓子をもらっていました。

今回参加した広瀬未来莉さん（成器南小4年）と岡崎映子さん（成器南小4年）は「トリックオアトリートでお菓子をいっぱいもらいました。ハロウィンパーティーをするのは今日だけなのでとても楽しかったです。」と、広瀬さんのおじいちゃんに作ってもらったという魔女の衣装を着て、笑顔一杯に答えてくれました。



次々と手をのばしてお菓子をもらう子どもたち

秋のうまいもんを満喫

10月13日、14日の両日、すがすがしい青空のもと、「2007勝山うまいもん祭」がかつやま恐竜の森芝生広場を会場に開催され、2日間で2万5,000人の人出で賑わいました。

会場には、地場の野菜やいわなの塩焼き、里芋の煮っころがしなど多くの「うまいもん」が所狭しと並び、来場者が舌鼓を打っていました。また、そば横町では市内の手打ちそばグループ3団体が軒を並べ、自慢の手打ちそばを実演販売し、昼頃には長い行列ができていました。

芝生広場には、シートを敷いてのんびりとくつろぐ家族連れも多く見られ、広場中央では、市内の園児による演技なども行われました。

また今回からは、買い物をした際にもらえる補助券5枚で、まつたけが当たる抽選会も開かれ、何度も抽選を受けるかたも見られました。



多くのかたが足を止めて見入っていたそば打ちの実演

野向小学校が内閣総理大臣賞受賞

学校花壇づくりを通して、児童・生徒の教育や環境美化の意識を高める「フラワー・ブラボー・コンクール」の秋花壇で、野向小学校が内閣総理大臣賞を受賞しました。

同校1年生の川崎亜利沙さんが考えた「ペロペロキャンディー」のイメージをデザインした作品で、真っ赤なサルビアや白と青のファリナセアなど5種類の花で2つの渦を表現しました。

花壇づくりは、種まきから肥料やりまで児童全員で春から取り組んできており、世話役の中心となつたさわやか委員会の竹内寛斗さん（6年）、竹内友哉さん（4年）、倉田香緒里さん（4年）、宮崎唯さん（3年）の4人は、「前回のコンクールでは県知事賞で、今回はもっとすごい賞がとれて、とてもうれしいです。毎日の水やりが大変だったけれど、こんなにきれいに咲いてくれたので、これからも花壇づくりを続けていきたいです。」と、笑顔で語ってくれました。



最高賞の受賞に喜びいっぱいの野向小全児童

長年の鉄道を守る運動に

中部運輸局長表彰

勝山市電車利用促進会議

平成4年2月に京福電鉄株式会社から「勝山〜東古市」間と永平寺線の廃線申し入れがされてから、沿線自治体と共に市民団体も巻き込んだ存続運動が活発化しました。特にタミナル駅である勝山市では存続運動の機運を盛り上げようと平成8年に「京福電車存続対策勝山市民会議」が発足。そして署名を基にした陳情や要望により、行政支援による存続合意となり、サポーターズクラブの発足やイベント、フォーラムなどの開催により公共交通機関を守ろうとの意識が高まりました。

そんな折、京福電車の二度にわたる正面衝突事故により存続が暗礁に乗り上げましたが、「京福電車利用促進会議」などの沿線自治体住民らの熱い思いが福井県を動かし、平成15年10月に第3セクターによる新鉄道会社「えちぜん鉄道」が全線開通しました。

このような鉄道を守る住民運動は全国から注目を受け、その利用促進活動を通じた鉄道思想普及への貢献



えちぜん鉄道全線開通1周年記念「利用促進決起集会」